

感染症を抑え込んだ 江戸時代の銚子



せきかんさい
関寛齋

天保元年(1830)~大正元年(1912)

上総国山辺郡中村(現東金市)生まれ。銚子を離れたのちは徳島藩医、海軍省医などを歴任。その後未開の地だった北海道で窮乏に耐えつつ患者を救護した。

幕末の銚子をコレラの流行から救った医師、関寛齋をご存知ですか。佐倉順天堂(佐倉市)でオランダ医学を学んだ寛齋は銚子で医院を開業していました。

安政5年(1858)、寛齋は江戸で大流行していたコレラが銚子で流行することを恐れたヤマサ醤油七代目当主濱口梧陵の勧めで、江戸で蘭方医から臨床治療法や防疫法を学び、薬品類や文献を入手して銚子に戻ると、コレラ対策に大活躍しました。

江戸ではコレラによる死者が3万人ともいわれますが、江戸との交流が盛んだったにもかかわらず銚子ではごく少数の発生に抑え込むことに成功しました。

問 文化財ジオパーク室 ☎(21)6662

銚子にすごい医師がいたこと伝えたい 室井房治さん(本通り町町内会長)

町内に関寛齋と濱口梧陵のコレラ防疫を伝える石碑があります(中央町大坂屋薬局前)。寛齋の感染症対策は160年たった現代とそんな

ありません。コロナ禍を体験してみて改めて寛齋の的確な医療知識と濱口梧陵の先見の明には舌を巻きます。



▶室井さんが作った関寛齋を紹介したチラシ。町内の人たちに感染症対策の意識向上を呼びかけている



インフルエンザの予防接種を受けると、感染を防げたり、感染したとしても重症化を防げますが、そもそも発症を100%防げるわけではありません。

新型コロナウイルス予防のためにも、インフルエンザの流行期は感染予防をこころがけましょう。

Point 2

予防接種を
受けても
予防を
こころがける

感染予防の ポイント

3つの
基本



新型コロナ予防と
同じです

1 人との距離を保つ

換気の悪い場所、大人数が集まる場所、間近で会話することを避けましょう。



2 マスク着用

マスクがない場合に咳をするときは、手ではなく、ティッシュ、ハンカチ、袖や上着の内側などで口と鼻を覆いましょう。

3 こまめな手洗い

石けんで10秒もみ洗いし、流水で15秒すすぎましょう。できれば2回繰り返すと、さらにウイルスを除去できます。帰宅時は手のほかに顔も洗うようにしましょう。



- 家族への感染を避けるため、できるだけ別の部屋で療養を
- 感染者はもちろん、家族全員がマスクをする
- 感染者のお世話はできるだけ限られた人、できれば一人に決める
- 脱水症状を防ぐため、こまめに水分補給
- 定期的に部屋を換気する

もしかかったら 周囲にうつさない配慮を

呼吸困難、おう吐や下痢、胸の痛みが続くなど重症化のサインが見られたら、あらかじめ電話で相談し、すぐに医療機関を受診しましょう。